

最近では、機械の進歩が目覚ましく、日々驚かされていることばかりです。

チェスで人間に機械が勝ったのが20年前で、数年前には将棋で、そして先日は囲碁で機械が人間に勝ちました。以前から力やスピードなど多くの面で機械は人間を上回っていたので、今それに驚くことはありませんが、知能までも上回ってしまうことには驚きと同時に不安を感じてしまいます。まさに多くの人の予想を超える速さで技術が進歩しているのは間違いないようです。

人工知能だけでなく、アンドロイド技術にも驚かされています。有名人そっくりのアンドロイドもすぐにはそれが機械と気づかないレベルですし、他にも、ロボット型の携帯電話など人工知能とアンドロイドの技術が一体化して人間に近いものがどんどんできてくるように思います。

その中で、特に気になったものがありました。それは二足歩行のロボットです。ニコニコ笑ってしまいたくなるような愛嬌ある歩き方をするロボットや、アニメ的ロボットなどたくさんあります。そのようなロボット性能を示すための動画を観る機会がありました。その中では、荷物を運ぼうとする

「機械の進歩…」

ロボットを人間が邪魔をして突き飛ばしたり、転がしたりしていました。そこまでしても、「ロボットは荷物をきちんと運べるんだ」ということを示そうとする目的なのでしょうが、それを見ていると、ロボットが健気でかわいそうに思いました。このロボットはただ機械的に動いているだけなのです。が、それでもなぜか感情移入してしまいます。なんだかとても不思議に感じました。

感情のないものにまで、かわいがってあげたいとか、かわいそうだと感じるのには、人間の心根の優しさのように思います。私たち人間はそのような心をもっていることを誇りに思い、いくら技術が進んで行っても、人間だからこそ感じる事ができる、変わらない優しさを持ち続けていきたいものです。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569